

# NSM Approachによる類義語の意味分析\*

- 日韓の伝達表現を中心に -

Asano-Cavagh, Yuko\*\* · Lee, Duck-Young\*\*\*

## 〈 Abstract 〉

### NSM-based approach to meanings of synonyms:

Focusing on hearsay markers in Japanese and Korean

The aim of this study is to analyse hearsay markers *souda*, *rashii* and *-tte* in Japanese and *-tay* and *-nikka* in Korean from the perspective of Natural Semantic Metalanguage (NSM), which was proposed and developed by Anna Wierzbicka and colleagues (Goddard 1994, 1998, 2008, 2016; Goddard & Wierzbicka 2002, 2014; Peeters 2006). *Souda*, *rashii* and *-tte* are used in similar situations and are often translated in English as 'he/she says', or 'I heard'. Although these hearsay markers are considered synonyms, they are not necessarily interchangeable. There are subtle differences which cannot be captured by a dictionary or conventional semantic analysis. The current study shows that the NSM Approach is more advantageous than previous researches in that it can describe the (dis)similarities of synonyms in a simple and accurate fashion.

The study will then analyse Korean markers, *-tay* and *-nikka* from the NSM perspective, and compare its results with those of the Japanese hearsay markers. Within the NSM framework, the semantic properties of each expression are defined by semantic primes, which are near-universal in nature. It will be demonstrated that the NSM Approach is capable of dealing with semantic properties of markers/expressions in different languages, and that definitions facilitate the understanding of each expression and enable to compare the meanings cross-linguistically.

Field : Semantics

Keywords : NSM, Metalanguage, Semantics, Synonyms, Hearsay markers

## 1. はじめに

日本語学や言語学または言語教育において、意味分析をどう行うか、または意味についてどう教えるかといった課題は中心的なテーマである。言語学ではこれまで辞書による意味の定義からはじまり、解

\* This work was partly supported by the National Research Foundation of Korea Grant funded by the Korean Government.(NRF-2007-362-A00019)

\*\* カーティン大学 教授、意味論

\*\*\* オーストラリア国立大学 教授、日本語学

積意味論 (Katz & Fodor 1963)、生成意味論 (Lakoff 1970; McCawley 1968)、格文法 (Fillmore 1968)、関係文法 (Perlmutter 1983; Perlmutter & Rosen 1984; Postal & Joseph 1990)、概念意味論 (Jackendoff 1983, 1990) など、様々な意味分析のアプローチが取られてきた。特に類義語の違いについては日本においても議論に議論が重ねられ、学習者にどのように説明するべきかかなり明らかにされてきている。例えばモダリティ表現については、1980年代から1990年代にかけて日本でも活発な議論がなされてきた。

しかし後に述べるように、依然として類義語との違いが明確にされておらず、問題点が残されている。本稿ではこれまで取られてきた様々な意味論上のアプローチの中から、特にオーストラリアをはじめ英語圏およびヨーロッパの各国で実践されている代表的な手法、Natural Semantic Metalanguage (NSM) Approach (Goddard 1998, 2011; Goddard & Wierzbicka 2014; Peters 2006; Wierzbicka 1996, 2006)を紹介したいと思う。分析例として、まず日本語のモダリティ表現の中でも広く議論されてきた伝達表現「そうだ」「らしい」「って」の意味に焦点を当てる<sup>1)</sup>。語の意味について考える上で、NSM Approachがどのように正確に意味を説明し、かつ類義語との違いを明確にするのかについて論じる。その後、韓国語の伝達表現-대と-니까の意味をNSMの観点から分析し、両語の意味の相違を明確にするのはもちろん、上記の日本語の伝達表現との比較を通じて NSM Approachは異言語間の類似語の相違を明確に示す上でも効率だと言うことを明らかにする。

## 2. 日本語の伝達表現「そうだ」「らしい」「って」

### 2.1. 問題の在り処

伝達表現の「そうだ」「らしい」「って」については一般的に三表現とも日英辞書にはhe/she saysまたは I heardという意味が記述されており（例えば、近藤・高野 (2011) 『プログレッシブ和英中辞典』）、次の例にもあるように翻訳でも訳され方は同じである（それぞれの例文において bはaの英訳である）。

- (1) a. この母が死んじゃった後、エリ子さんは仕事をやめて、まだ小さかった僕を抱えて何をしようか考えて、女になることに決めたんだって。もう、誰も好きになりそうにないからってさ。女になる前はすごい無口な人だったららしいよ。

(吉本1988: 22)

- b. After my real mother died, Eriko quit her job, gathered me up, and asked herself, 'What do I want to do now?' What she decided was, 'Become a woman'. She knew she'd never love anybody else. She SAYS that before she became a woman she was very shy ...

(Backus 1993: 14)

- (2) a. 口さん、ひとつ走りして医者を呼んでくれますから。」と江口は扉を開けて、電気をつけた。「そ

1) 英語のモダリティ表現についてはNSM Approachを使ってかなり詳しい意味分析がなされていて (Wierzbicka 2006)。

の間、この成瀬さんが横についてくださるそうです。成瀬さんは病院ボランティアをされていたから安心です。」 (遠藤1993: 236)

- b. Kiguchi, I'm going to run over immediately and get a doctor.' Enami opened the door and turned on the lights. 'While I'm gone, Miss Naruse **SAYS** she'll stay with you. She's been a volunteer at a hospital before, so that's a relief.'

(Gessel 1994: 149)

- (3) a. 部屋を片付けないでくれてって言われてるの。散らかり具合にも秩序があるんですって。笑っちゃうでしょう？ (山田1989: 160)

- b. 'He won't let me tidy up. He SAYS there's an order to his chaos. Makes you laugh, huh?

(Johnson 1992: 144)

これらの訳語自体には問題はないのであるが、日本語教育においても往々にしてhe/she saysまたは I hearの対訳がされており、このことから日本語学習者は自動的に「そうだ」「らしい」「って」は類義語であり、入れ替えが可能なものと誤解してしまうことがある。確かに場合によっては3つの表現を入れ替えてもさして意味の違いを生じることなく、問題がない場合もある。しかし先行研究でも指摘されているように、「そうだ」「らしい」「って」には微妙な意味の違いがあり、相互に入れ替えが出来ない場合も多い。そこで誤用を防ぐためにも細かい意味の違いをどのように説明するかが問題となってくる。

## 2.2. 先行研究におけるモダリティ表現の意味分析

寺村 (1984) では、伝聞の「そうだ」は「ある事態について、自分は直接知らないが、他からこう伝え聞いたということを相手に伝える言い方である(p.256)」と説明されている。さらに、「そうだ」は「100パーセント他から得た情報ということがはっきりしている(p.249)」のに対し、「らしい」は「その点があいまい(p.249)」と指摘する。寺村 (1984) によると、「らしい」は「話し手の推量が、自らの主観的判断よりも他から得た情報に基づくものである可能性の方が高いという印象を受ける(p.251)」という。

中島 (1992)、野林 (1999)、菊池 (2000) においても伝聞の「そうだ」と「らしい」の違いが取り上げられている。菊池 (2000) は「そうだ」と「らしい」は両表現とも伝聞として使われるが、「らしい」は「〈信じてよかろうと判断して採用する〉プロセスを含む」のに対し、伝聞の「そうだ」は「〈そのまま伝える〉表現である」。したがって、「信ずべきか否かといった判断の余地がない」場合には、「そうだ」は使えるが、「らしい」はそぐわない。例えば次の例である (菊池2000: 48)。

- (4) 今、田中さんから電話がありました。たった今、成田に着いたそうです。

?今、田中さんから電話がありました。たった今、成田に着いたらしいです。

一方「って」に関してもいくつかの研究がされている (Aoki 1986; 青木1998; 許1999)。一般に「って」は「そうだ」の口語体と説明されているが、堀口 (1995) は「そうだ」と「って」の違いについて一つの重要な指摘をしている。堀口によると「って」は引用内容をそのまま伝聞の形で聞き手に伝えることが出来るのに対し、「そうだ」には同じ機能がなく (p.19-20)。

- (5) A: 先生、宿題のこと何か言ってた。  
 B: あしたの昼までにだしなさいって。  
 \*あしたの昼までにだしなさい**そうだ**。
- (6) 妻: 近所の人がいやなこと言うのよ。  
 夫: なんて?  
 妻: お宅のご主人、会社をやめたんですかって。  
 \*お宅のご主人、会社をやめたんですか**そうだ**。

もしも「って」が「そうだ」の口語体だけであるなら、上の例で「そうだ」の使用が可能ならばである。つまり「って」と「そうだ」には文体だけでなく、機能的な違いがあるということである。

これらの先行研究によってある程度、3つの伝達表現の違いが明らかにされてきてはいるものの、依然としてあいまいな点が残る。まず、寺村は「らしい」は「話し手の推量、自らの主観的判断よりも他から得た情報に基づくものである可能性の方が高いという印象」を与えると述べているのに対し、菊池は「〈信じてよかろうと判断して採用する〉プロセスを含む」と説明している。つまり「らしい」は一方では主観的判断ではないとされ、もう一方では話し手の判断を含む表現であるとされている。

この話し手の判断が「主観的であるか客観的であるか」という点は、他のモダリティ表現の意味を究明する上でもかつて頻繁に用いられてきた基準であった(森田 1980; 寺村 1984; 金 1992)。また情報が「直接的であるか間接的であるか」、話し手が情報に対して「近いと感じるか遠いと感じるかという心理的距離」、「話者が自分の下した判断に対して、責任があると意識しているか否か」という点も議論に加えられ結局ははっきりとした定義の一致は見られままとまっている(早津 1988; 金 1992; 野林 1999; 菊池 2000)。しかし、田野村(1991)も指摘するように、話し手が「情報に対してどのような態度を取るか」「主観的であるか客観的であるか」はそもそも語の選択基準として有効なのであろうか。

「らしい」が使用されているからと言って、必ずしも話し手が情報に対して心理的に距離を置いているとは限らない。さらに言えば、もし「判断が主観的であるか客観的であるか」または「情報が直接的であるか間接的であるか」が表現の意味そのものであるとすれば、他のモダリティ表現との意味の違いをどのように明記するかが問題となってくる。例えば次の「らしい」の例文は、「ようだ」だけでなく、「ちがいない」や「かもしれない」とも入れ替えが可能である。

- (7) a 直美は阿部サオリから預かった荷物を届けに工事現場にやって来る。勇介の母親に場所を聞いたらしい。(ドラゴン Ep. 2)<sup>2)</sup>  
 b. 直美は阿部サオリから預かった荷物を届けに工事現場にやって来る。勇介の母親に場所を聞いた**ようだ**。  
 c. 直美は阿部サオリから預かった荷物を届けに工事現場にやって来る。勇介の母親に場所を聞いた**ちがいない**。

2) 日本の例文の出典で(ドラゴン)はドラマ『ドラゴン桜』(TBS TV, 2005)を、(花)は『花より男子』(TBS TV, 2005)を示す。詳細は〈引用資料〉を参照されたい。

- d. 直美は阿部サオリから預かった荷物を届けに工事現場にやって来る。勇介の母親に場所を聞いたかもしれない。

上の例で仮に「ようだ」が主観的な判断を表し、直接的に得られた情報、あるいは情報に対して心理的に近い点が「らしい」と異なるとすると、「ちがいない」はどのように説明出来るであろうか。「ちがいない」については「はずだ」と共に、詳しい意味分析がされているが(国広 et al. 1982; 野田1984; 中島1992; 仁田1991; 三宅1995; 藤城1997; 森山 et al. 2000)、「ちがいない」や「かもしれない」も「直接的に得られた情報に基づく主観的な判断を示し、情報に対して話し手は心理的に近いと感じている」ととらえることも十分可能である。つまり、どのように意味の定義を行っても、その定義が他の表現にもあてはまってしまうという、意味分析によくみられる堂々巡りの問題が生じるのである。

最後に、日本語モダリティの意味について考えるとき、他の言語との比較をどのようにするかも大きな問題となってくる。「らしい」は I heard, he/she says の他にも I think や apparently と英訳されることが多い。つまり、言語間の表現が一对一の対応をするということは殆どなく、それは「そうだ」「って」にも当てはまることである。比較意味論の観点から考えると、そもそも日本語のモダリティ表現と厳密に言って全く同じ意味・機能を持つ表現は、英語をはじめとする外国語には存在しないと考えるのが妥当である (Wierzbicka 1996, 2006; Asano-Cavanagh 2009, Asano-Cavanagh 2010, Asano-Cavanagh 2016)。言語によって微妙な意味の違いがあり、その違いをどのように説明し、誤用を防ぐことが出来るだろうか。こういった意味論上の問題を解決するために、次のセクションでは NSM Approach を用いた意味分析の方法を説明したいと思う。

### 3. NSM Approachによる意味分析の方法

NSM Approachは1960年代にポーランドの学者、Andrzej Bogusławskiによって初めて発案されたが、その後Anna Wierzbicka およびCliff Goddard を中心に引き継がれ、50年近くの歳月を経て、現在では最も理論的に確立された意味分析の手法として世界で認められている。NSM Approachを使って意味分析を行った論文および書籍は海外で数多く出版されており、枚挙にいとまがない<sup>3)</sup>。これまで分析された言語は、英語の他にフランス語、ロシア語、ドイツ語、デンマーク語、イタリア語、スペイン語、北京語、広東語、シンガポール英語、マレー語、ラオス語、ヘブライ語、オーストラリアのアボリジニの言語(例えば Pitjantjatjara/Yankunytjatjara, Kayardild)、アメリカインディアン言語(Kashaya, Quechua, Wintu)、パプアニューギニアの言語(Koromu)、およびアフリカで使用されているアムハラ語、エウェ語など、30以上の言語が研究されてきている(Goddard 1994, 2005, 2006, 2008; Goddard & Wierzbicka 2002, 2014; Peters 2006)。日本語の表現に関してはHasada (1997, 2001, 2002, 2006, 2008)、Otomo & Torii (2005)、Onishi (1997)、Asano (2002, 2008)、Asano-Cavanagh (2009, 2010, 2011, 2014a, 2014b, 2016, 2017) およびFarese (2016) が主に研究を行ってきており、韓国語に関してはYoon (2003, 2004, 2006, 2007, 2008, 2011) が中心となっている。しかし日本語や韓国語の表現に関する論文

3) 詳しくはグリフィス大学のウェブサイトを参照のこと。

<https://www.griffith.edu.au/humanities-languages/school-humanities-languages-social-science/research/natural-semantic-metalanguage-homepage>

のほとんどが英語で書かれており、海外に向けて発信されているため、NSM Approachを使った意味分析が一体どういうものなのか、残念ながら日本及び韓国の日本語学研究者の間ではあまり知られていないのが現状である。

まず、NSM Approach による意味の定義では、難解な語彙や抽象的な記号は一切用いずに、意味的に誰にとっても最も明解な基本語彙のみを使って言い換えを行う手法 (reductive paraphrase methodology) が用いられる。言い換えると、ある語彙に含まれるさまざまな意味的要素を基本語彙を使って細かく分解して明示することによって、その語彙の意味を正確に説明するという方法である。その手法をとることにより、類義表現との違いが明確にされ、誰の目にも誤解を生むことなく意味が理解されることが可能となる。

さてここで「最も明解な基本語彙」とは何であろうか。NSM Approachでは長年の研究により、世界にあるおよそすべての言語には I, YOU, THINK, KNOW, WANT, FEEL, SEE, HEAR といったsemantic primesと呼ばれる共通の概念が存在することが分かっている。現段階でその存在が確定されているsemantic primesは65であるが、英語、日本語、および韓国語のsemantic primesは以下のとおりである。

〈表1〉 Semantic primes Anglo English exponents (Goddard and Wierzbicka 2014)

I~me, you, someone, something~thing, people, body	substantives
kinds, parts	relational substantives
this, the same, other~else~another	determiners
one, two, some, all, much~many, little~few	quantifiers
good, bad	evaluators
big, small	descriptors
know, think, want, don't want, feel, see, hear	mental predicates
say, words, true	speech
do, happen, move	actions, events, movement
be (somewhere), there is, be (someone/something) (something) is (someone's)	location, existence, specification
(is) mine	possession
live, die	life and death
when~time, now, before, after, a long time, a short time, for some time, moment	time
where~place, here, above, below, far, near, side, inside, touch	place
not, maybe, can, because, if	logical concepts
very, more	intensifier, augmentor
like	similarity

〈表2〉 Semantic primes Japanese exponents (Asano-Cavanagh 2014a)

watashi, anata, dareka, nanika-mono, hitobito, karada,	substantives
shurui, bubun	relational substantives
kore, onaji, hoka	determiners
hito-ichi, futa-ni, ikutsuka, minna, takusan, sukoshi	quantifiers
yoi, warui,	evaluators
ookii, chiisai	descriptors
shiru, omou~kangaeru, tai~hoshii~nozomu, takunai~hoshikunai~nozomanai, kanjiru, miru, kiku	mental predicates
iu, kotoba, hontou	speech

suru, okoru-okiru, ugoku	actions, events, movement
(dokokani) iru~aru, (dareka/nanika) dearu, (dareka no mono) dearu	location, existence, specification
watashi no mono dearu	possession
ikiru, shinu	life and death
itsu~toki, ima, mae, ato, nagai aida, minikai aida, shibaraku ko aida, suguni	time
doko~tokoro, koko, ue, shita, tooi, chikai, men, naka, sawaru	place
nai, tabun, dekiru, kara, moshi (ba)	logical concepts
sugoku, motto	intensifier, augmentor
you~dou~youni	similarity

〈表3〉 Semantic primes Korean exponents (cf. Yoon 2008)<sup>4)</sup>

na, ne, nwukwu, mwues-kes, salantul, mom	substantives
conglyutul(-uy), pwupwuntul(-uy)	relational substantives
i, ttokkath-, talu-	determiners
han, twu, myech- etten N+ tul, motun, manh-, cek-	quantifiers
coh-, nappu-	evaluators
khu-, cak-	descriptors
al-, sayngkakha-, wenha~V+ko.siph-, wenhaci anh-V+ko.siphci anh, nukki-, po-, tut-	mental predicates
malha-, maltul, sasil	speech
ha-, ilena~sayngki-, wumciki-	actions, events, movement
iss-, iss-, iss-	location, existence, specification
nay	possession
sal-, cwuk-	life and death
tta-encey, cikum, cen, hwu, olay(-tongan), camkkan(-tongan), elma tongan, swunkan	time
kos~eti, yeki, wi, alay, mel-, kakkap-, ccoek, an, tah-(-a.iss)	place
an~V+ci.anh-, ama V-(u)lkes.i-, -(u)lswu. (ka) .iss-, ttaymwun(ey), -(u)myen	logical concepts
acwu, te	intensifier, augmentor
kath-	similarity

まず、上にあげられたsemantic primesはこれ以上定義することが出来ない基本的な概念であり、語彙素 (lexeme) ではなく字句単位 (lexical unit) で存在する<sup>5)</sup>。Semantic primesは単独で語として現れるものだけでなく、拘束形態素や句である場合もある。また言語によっては特定の概念におけるsemantic primesが一つだけでない場合もあり、その場合は「~」で表わされる (例えば英語では MUCH とMANYを区別し、MUCH~MANYと表わすが、これに相当する概念が他の言語では一つで表わされたりする)。逆に英語で一つの語で表わされても、他の言語では句となる場合もある。またTHINKとKNOW、WHENとIFなどが一つの単語で表わされる言語もあるが (例えばオーストラリアのアボリジニの言語やドイツ語など)、これらはその言語において統語的に区別が可能であることが分かっており、semantic primesと認められている。

4) 韓国語のsemantic primes については

<https://www.griffith.edu.au/humanities-languages/school-humanities-languages-social-science/research/natural-semantic-metalanguage-homepage>より抜粋。

5) 例えば、semantic primesのFEEL は英語には二つ目の意味'touching'があるが、この意味は他の言語とは共有されないため、semantic primesとして使うことは出来ない。

そしてsemantic primesを使った文型は、あくまで世界中の言語で表現可能であることが大前提である。従って、英語などに特有な関係代名詞、分詞構文、比較級などは他の言語には見られないため、使用することは出来ない。基本的に使用出来る文型例は次のとおりである (Goddard 1998, 2011)。

maybe something bad happened  
 I want to do this  
 these people lived for a long time  
 I did it like this  
 that place is far from here  
 this thing has two parts  
 if you do this, people will think something bad about you

つまり世界中のどの言語においてもmaybe something bad happenedやI want to do thisということが可能である。そしてその文の意味はどの言語を通して同じということになり、定義された語彙の解釈がどの言語話者にも可能となる。

もちろん語彙の意義素を正確に定義するのは不可能であるとみなす考え方もあるが、言葉の意味は学校教育や家庭、地域社会、職場、出版物、およびメディアを通して培われてきた理解であり、意味の核心はその言語の話者にほぼ共有されていると考えられる。言い換えると、語彙には必ず核となる意味の要素が存在し、それらはその言語の話し手に共通して理解されているはずである。もちろん、意味は時代とともに変化を遂げており、ある語彙の意味が30年前のものとはかなり違っているという場合もある。その場合には、ほぼ確立されているであろうと考えられる意味の定義を(定義1、定義2のように)別々に行う場合がある。

また、NSM Approachで意味分析を行う場合には、「提案された定義イコールその語彙」となるまで、厳密な定義の推敲を行わなければならない。つまり、提案された定義が他の語彙には当てはまらなくなるまで、意味上の微妙な違いを表すことが出来るまで試行錯誤を続ける手法である。基本的にネイティブの話者の間で同意が得られるまで定義のし直しを行う。従って、過去に発表された定義であっても、その定義の修正を行うということは十分起こりうる。

最後に、65のsemantic primes だけで一体全ての語彙の意味分析は可能であるかと疑問を持たれる読者もいることと思う。NSM Approachではここ20年以上の研究により、semantic primesのほかにsemantic molecules ([m]と記される) という意味単位の導入を行うことが可能となった (Goddard & Wierzbicka 2014; Goddard 2016)。Semantic moleculesとは世界中の言語に共通はしていないが、数多くの言語に存在すると考えられている語彙の集合<sup>6)</sup>、例えば、man, woman, children, father, mother といった社会的な単語や、hands, mouth, eyes, legs といった身体部分を表す語彙、およびsky, the Earth, sun, moon, ground など環境を表す言葉を含む。Semantic moleculesは意味を定義する上で一つの塊('building blocks')としての機能を果たす。例えば、英語のsparrowと eagle という言葉の意味を定義する場合は、bird [m] を semantic moleculesとして用いることが出来る。Semantic moleculesの導入によって、意味的に複雑な概念をより簡潔明解に説明することが可能となる。もちろんsemantic moleculesはsemantic primesを使って定義が可能であり、使用した場合には別途にsemantic primes を用いて定義

6) Goddard (2016) によると60~80のsemantic molecules はnear universal である。

をする必要がある。本稿で分析する表現にはsemantic moleculesを使用しないため、ここではこれ以上の詳しい説明は割愛するが、詳しくはGoddard & Wierzbicka (2014) およびGoddard (2016) を参照していただきたい。それでは次のセクションでは、semantic primes を用いて具体的に「そうだ」「らしい」「って」の定義を行っていきたいと思う。コーパスは2005年以降に放映された日本のテレビドラマ（『ドラゴン桜』『花より男子』）に現れた発話からの引用である<sup>7)</sup>。

#### 4. NSM Approachによる「そうだ」「らしい」「って」の意味分析

このセクションでは先に「そうだ」の意味を「って」と比較しながら分析することにする。まず、「そうだ」の用例である。

- (8) 大体よ、お前ら一人前に何を思い上がってるんだか知らんが、お前らが全力で立ち向かって勝てる相手かどうかわかんないぞ。相手はよ、帰国子女だそうだ!

(ドラゴン Ep. 6)

先行研究でも指摘されているように、「そうだ」は話し手が実際に他の誰かからこの情報を得たことを示し、話者の判断は含まれない。この例では、「そうだ」は「って」と入れ替えが可能である。

- (9) 相手はよ、帰国子女だって!

両文に意味的に大きな違いは見られないが、もしも聞き手が目上である場合には「そうだ」を「そうです」として変えて使うことが出来るが、「って」は使うことが出来ない。つまり「って」が用いられるのは聞き手が対等の立場にいるときに限られており、このことをsemantic primes を使って表すと、when I say this to you, I think about you like this: you are someone like meということになる。しかし果たして違いは文体だけであろうか。

第2節でも述べたように、命令文や疑問文をそのまま伝達する場合には「って」しか使うことが出来ない(堀口1995; 許1999)。

- (10) a. 会社を辞めたんですかって。  
b. \*会社を辞めたんですかそうだ。

(堀口1995: 19-20)

つまり、「って」は文体を変えることなくどんな発話内容であってもそのまま伝達することが出来る。このことは「って」が次の例にあるように、引用の助詞として用いられることから裏付けられる。

7) テレビドラマにおける発話は自然発話ではなく、人工的に作られた発話ではあるが、伝聞表現の意味分析をする上では支障はないと考えられる。

- (11) a. 家に行ったらおばさんが勇介はここだって。  
 b. \*家に行ったらおばさんが雄介はここだそうだ。 (ドラゴンEp. 2)

平叙文だけでなく、命令文や感嘆文、疑問文の全てとの共起が可能であるということはつまり、話し手は単にsomeone else said thisと述べているということである。言い換えると、「って」の場合は、話し手は必ずしも第三者の知識の保持 I know thisを意味しているわけではないということである。

一方「そうだ」の場合は発話内容が平叙文に限られる。例えば、先の例の「相手はよ、帰国子女だそうだ!」では、第三者が「相手は帰国子女だ」という命題を自身の知識として発言したということを目指す。Semantic primesを使って言い直すと、someone else said: I know this ということである。

最後に「そうだ」や「って」が使われる場合、両表現とも話し手自身はその命題の真偽については確信がない。つまり「他者はこのように述べているが、真偽のほどは定かではない」という意味が含まれる。他のモダリティ表現にも共通するI don't say; I know thisという要素が含まれるのである。以上のことをまとめると、「そうだ」と「って」の意味は次のように説明することが出来る。

#### ■ そうだ

- (a) I say this about X because someone else said: I know this  
 (b) I don't say: I know this

って

- (a) I say this because someone else said this  
 (b) I don't say: I know this  
 (c) when I say this to you, I think about you like this: you are someone like me

この定義はもちろん他の言語のsemantic primeを使っても言い換えが可能である。例として「そうだ」のsemantic primeを日本語と韓国語で表すと次のようになる。

〈日本語〉

そうだ

- (a) 私はXについて他の誰かが私に「これを知っている」と言ったからこれを言う  
 (b) 私は言わない：私はこれを知っていると

〈韓国語〉

そうだ

- (a) 나는 X에 대해 다른 누군가가 나에게 '이것을 알고있다' 라고 말했기때문에 이것을 말한다  
 (b) 나는 말하지 않는다 : 나는 그것을 알고있다고

日本語および韓国語で書かれたものは英語同様、日常会話で使われる表現ではないため、不自然に感じられるかもしれない。しかし、semantic primes による意味の定義はあやふやな点がなく、しかも、一

つの表現にしか当てはまらないため、類義語表現の違いが明瞭となる。さらにどの言語の話者にも理解が可能であり、言語教育においては特に有用である。

次に「らしい」の意味を解明しよう。先行研究でもしばしば指摘されているように（寺村1984；鎌田1988；中島1992）、「そうだ」「って」と比べると「らしい」は伝聞以外にも推量を表すこともあり、話し手自身の判断を述べているのか、伝聞による情報をもとに判断した推論を述べているのか定かでない場合が多い。例えば次の例である。

- (12) A: 静さんももう戻って来ないだろうし。  
B: 椿さんもロスに帰ったらしいし。 (花 Ep. 3)

「らしい」の意味が一つなのか、それとも推量と伝聞の二つとみなすかは議論が分かれるところであるが、中島（1992）が指摘しているように、「どうやら」などの副詞が使われると推量であることは明白である。

- (13) そして、お茶を出す男性。顔は映っていなかったのですが、**どうやら**レイザーラモンさんらしいです！エンドロールでお名前に気付き、検索してわかりました。（笑）  
(花 Ep. 9)

この例では、話し手は伝聞ではなく、自らインターネットの検索から得た情報によってある人物が誰であるかの判断を下している。このような推量の意味を表す「らしい」については、すでにsemantic primes を使って「ようだ」「そうだ」との比較を行った研究がなされているため（Asano 2010）、興味のある方はそれをご参照いただければと思う。一方、中島（1992）の指摘する通り、判断の根拠が言語情報である場合には、「らしい」は伝聞を表すと解釈される場合が多い。例えば次の例である。

- (14) 類！すりおろしたリンゴを食い続けると、若ハゲになる確率が高いらしいぜ。  
(花 Ep. 4)

- (15) A: しかし、ついに、姉ちゃんも、シンデレラの仲間入りだね！  
B: 大げさだよ、もう！パーティーっていっても、ジーンズでOKのカジュアルならしいし。そんな位でこれ以上食費削る必要ないって！  
(花 Ep. 2)

この2例では、話し手が自ら観察したり経験したことを通して推量判断を下したというよりも、他者から得た情報をもとに伝達しているとみなすのが妥当である。それは「すりおろしたリンゴを食べ続けると若ハゲになる確率が高い」「パーティーはカジュアルである」という命題について、独自の観察や体験をもとに推量を行ったとは考えにくい状況だからである。

では、伝聞を表す「らしい」が使われる場合の話し手が意図する意味は何であろうか。先にも述べたように、伝聞の「らしい」にはあいまいな点が示唆されるため、メッセージなどをそのまま伝える場合

には使うことが出来ない。これはつまり寺村 (1984) の指摘の通り、他から得た情報を100%そのまま伝達しているわけではないということである。このことをsemantic primes を使って説明するとI say this about X because someone else said something about Xということである。例えば次の例である。

- (16) A: でも、何で牧野来なかったんだろうね。  
B: 電話も出ないらしいね。 (花 Ep. 8)

この例では話し手Aは「牧野が電話も出ない」という情報をそのまま受け取って伝えることを意図しているわけではない。そのまま受け取った情報を伝達するのであれば、「そうだ」か「って」が自然と使われるはずだからである。「らしい」が使われたということは、「牧野が電話も出ない」と話者が必ずしも聞いたわけではなく、その命題に近い情報を受け取ったことを意味している。例えば「牧野に電話をしてもつながらない」、「牧野に電話をしても誰もとりつがない」などといった内容である。「らしい」はこのようにある種の情報をもとに自らの表現を使って伝達を行っているということである。その為に伝聞表現としてあいまいな意味合いが含まれるのである。以上のことをまとめると、「らしい」の意味を次のように定義することが出来る。

〈英語〉

らしい

(a) I say this about X because someone else said something about X

(b) I don't say: I know this

話し手は命題の真偽については定かではないため、「そうだ」「って」と同様、「らしい」にもI don't say: I know thisが含まれる。以上、日本語の「そうだ」「らしい」「って」の意味をsemantic primes を使って定義した。第5節では韓国語の伝聞表現の分析を行う。

## 5. NSM Approachによる -대, -니까 の意味分析

まず-대についてであるが、한길(2004) によると、現代韓国語には伝聞の-대と話し手の感情的な面を示す文末表現の-대의 2種類がある。以下の (17a)と(17b)は、それぞれ前者と後者の例である。

- (17) a. 영희가 학교에 간대?  
b. 나는 언제 점심을 맘놓고 먹는데? (한길 2004: 215)

(17a)で、話し手は、第三者の영희が学校に行くと言ったのかを聞き手に聞いている。伝聞の用法である。それに対して(17b)は、話し手がゆっくり昼ご飯を食べる余裕がないことを嘆く表現で、ここで-대は自分の不満げな気持ちを言い表し、誰かの発言を言い伝えるものではない。この両者の違いは、-대의原型である-다고 해に復元出来るかどうかで確認出来る。つまり、以下の(17)'で例証するように、前者

の伝聞の-대는原型に復元出来るのであるが、後者の文末表現の-대는出来ない。

(17) a. 영희가 학교에 간다고 해?

b. \*나는 언제 점심을 망놓고 먹는다고 해? (한길, 2004: 215)

言うまでもなく、本稿では伝聞の-대のみを分析対象にするのであるが、-대는誰かが述べた様々な形の発言を自分の発言に織り込んで言い伝える表現である。例えば、(18a)では話し手の兄の우재가、복녀가オイル缶を持っていくのを見て言ったのを自分の発話に引用して言い伝えているわけだが、このように、引用される発話の話者が、言い伝える話し手の発話に示される場合がある。また、(18b)では、誰かを探している聞き手に、その人が飛行機に乗って行ったことを誰かに聞いて言い伝えているのであるが、このように、引用される発話の話者が誰なのか示されない場合もある。

(18) a. 우재 오빠가 왔는데 복녀님이 기름통을 들고 가시더라. (수상한 Ep. 11)<sup>8)</sup>

b. 응. 새벽에 제트기 떴대. (꽃 Ep. 6)

また、テンスの観点においても、上の(18a)で見るように「回想」の-더と使われ、思い起こした発言を言い伝える場合もあるし、(18b)や以下の(19a)のように「過去」の-았/았と使われ、過去に起こったことを言い伝えたり、(19b)のように「未来」の-겠と使われ、未来に起こることを言い伝えたりするなど、引用する発話のテンスに制約はない。

(19) a. 우리 가게 손님들도 인터넷으로 다 봤대. (공부 Ep. 9)

b. 6시까지 비우겠답니다.<sup>9)</sup> 그때까지 기다려주시면... (꽃 Ep. 5)

その他、(20a)の 않겠답니다 に見られるように否定の表現や、(20b)の-신대や(20c)の-셨대などの敬語の表現とも共起出来る。

(20) a. 도련님께선 오시지 않겠답니다. (꽃 Ep. 7)

b. 장영식 선생님은 처음 만나는 사람 앞에서는 이렇게 좀 부끄러움을 타시는데... (장영식 보며) 친해지면 괜찮아지신대. 맞죠. (공부 Ep. 8)

c. 니네 아버지가 다 꽃아내라 그러셨대. (공부 Ep. 3)

以上の例からも、-대가多様な内容の発言を言い伝える表現だということが分かるのだが、ここで注目すべき点は、(21)の例でもわかるように、-대는発話内容が平叙文に限らず、命令文や疑問文とも共起するという点である<sup>10)</sup>。

8) 韓国のドラマからの例の出典は(수상한)は『수상한 가정부』(SBS, 2013)、(꽃)は『꽃보다 남자』(KBS2, 2009)、(공부)は『공부의 신』(KBS2, 2010)を示す。

9) -답니다 は-대 のフォーマルなバージョンである。

10) -래(요)と-재(요)は-대の變形である。

- (21) a. 우리반 엄마들은요 종래 좀 빨리 끝내 **달래요** 학원 차 놓친다구. (공부 Ep. 11)  
 b. 누가 이길거 **갈래요**? 그분들이? (꽃 Ep. 7)  
 c. 왜 **보래요**? (수상한 Ep. 13)

これに限って言うと、日本語の「って」の場合と同様、伝聞の-대の話し手は単にsomeone else said thisと述べているだけで、必ずしも話者が命題を自分の知識として発言することを示す I know thisを意味しているわけではないということである。

しかし、-대가「って」と異なる点もある。第4節で「って」は丁寧さもしくはフォーマリティを示す「です・ます」体がなく、「って」が用いられるのは聞き手が対等の立場にいるときに限られると指摘した。また、このことをsemantic primes を使って表すと、when I say this to you, I think about you like this: you are someone like meということになると述べた。今までの例でもわかるように、-대はくだけた表現はもちろん(例: 봤대, 가시더래)、フォーマリティを示す-요, -히니다とも自由に用いられる(例: 갔대요, 알겠습니다)。言い換えると、-대には話し手と聞き手との平等な立場を示す要素はない。

また、「って」や「そうだ」の場合と同じく、-대も基本的に他者の発言を言い伝えるだけで話し手自身はその命題の真偽については確信がない。つまり「他者はこのように述べているが、真偽のほどは定かではない」という、他のモダリティ表現にも共通するI don't say: I know thisという要素が含有されるのである。以上のことをまとめると、-대의意味は次のように説明することが出来る。

-대

- (a) I say this because someone else said this  
 (b) I don't say: I know this

次は-니까について考える。まず、-니까は伝聞以外に(22)のように文中もしくは文末で使われ原因、理由などを示す場合がある(이상복 1981; Kim and Suh 1994; 안주호 2006)。

- (22) a. 밥값은 제가 낼 **테니까** 많이 드세요. (수상한 Ep. 10)  
 b. 넌 방금 마지막 기회를 차버린 거야. 내일은 아무리 울어도 소용없어. 이젠 **안봐줄거니까**. (꽃 Ep. 1)

本稿は文末における伝聞の-니까に焦点を置いており、これら、原因や理由などを示す-니까は分析の対象から除外する<sup>11)</sup>。

伝聞の-니까に関して注目すべき特徴は、話者自身が前に言った発話もしくは発話の内容を現在の会話に織り込むということである(Kim H, 2015)。そうすることによって、前の発言もしくは発言内容と関連したことを確認、強調したり今の立場を説明したり不満を表したりするのである。例えば、以下の例(23a)で、話し手は一つの発言の中で自分が前に言った内容をまたすぐ-니까を使用してリピートし発話内容を強調している。

11) この場合の-니까に関しては Lee, S (1981), Kim and Suh (1994), Ahn (2006) を参照されたい。

- (23) a. 뭔가 있어. 분명히 사연이 있다**니까**. (수상한 Ep. 8)  
 b. A: 사장이 되게 맘에 들어하네. 근데 진짜 당장 일할 수 있어?  
 B: 어? ... 어  
 A: 학교 그만둔 거, 맞구?  
 B: 맞**다니까**. (공부 Ep. 2)

(23b)は、高校生の話し手Bが学校を辞めたから仕事を紹介してくれと先輩に頼み、先輩の働いている職場の社長に採用してもらったのであるが、先輩のAが、Bが学校を辞めたのが本当なのかと確認を求めるのに対して、話し手Bはそれは本当だと確認している。ここでBは-니까を使用しつつ確認しているが、韓国語の母語話者なら-니까の使用はBが前にそのようなことを先輩に言ったことを前提にしているということが分かる。このような話者本人の発言内容の伝聞をsemantic primesで示すと、I say this because I said this ということになる。

話者本人の発話を伝聞する-니까は発話内容が平叙文の他、(24a)(24b)が示すように命令文とも共起出来るし、(24c)のように疑問文とも共起出来る。

- (24) a. 용돈 아꼈다 참고서 사 쓰**라니까**. (공부 Ep. 1)  
 b. 차돌백이 좀 꼬블쳐 오**라니까** 왜 말 안 들어 응? (공부 Ep. 2)  
 c. 누나 온거 아니**나니까**? (꽃 Ep. 5)

また、(25a)の버리신다니까のような敬語の表現や、(25b)의안 된다니까と(25c)의아니라니까のような否定の表現とも共起出来る。

- (25) a. 그 설마를 눈 하나 깜짝 안하시고 현실로 만들어 버리**신다니까**. (꽃 Ep. 3)  
 b. 이걸 안 된**다니까**. (수상한 Ep. 7)  
 c. 그런게 아니**라니까**. (꽃 Ep. 5)

このように、-니까は多様な文と共起でき、命題を自分の知識として言い伝えるのである。これは、伝聞とはいえ、-니까は話者本人の発話を言い伝える表現であり、言い伝える内容に関する真偽は本人にとって定かであることは当然である。したがって、「他者はこのように述べているが、真偽のほどは定かではない」という、-대や他のモダリティ表現に共通するI don't say: I know thisという要素は含まれず、-니까は「自分が述べたことであり、真偽は定かだ」というI say: I know this を意味する。以上をまとめると、-니까の意味は次のように説明することが出来る。

-니까

- (a) I say this because I said this  
 (b) I say: I know this

## 6. おわりに

以上、日本語の「らしい」「そうだ」「って」と、韓国語の-대と-니까の意味をNSM の観点から分析した。これらの表現は意味的に似ており、違いや類似性を明確に示すことは必ずしも容易ではない。しかし、本稿ではNSMの分析方法を使うと、日本語もしくは韓国語それぞれにおいて類似する複数の言語形式の相違を、いくつかのsemantic primesで明確且つ簡潔に示すことが出来るということを例証出来たと思う。

さらにもう一つ注目に値することは、NSM Approach は異言語間の類似語の比較にも大変有効であるということである。本論でも述べたように、semantic primesによる意味の記述はほぼ普遍的なものであり、異言語間の類似語のsemantic primesを照らし合わせることでそれらの語の類似点や相違点が自ずと明らかになる。例えば、以下は「そうだ」と-대や-니까の意味であるが、「そうだ」の semantic prime (a) はI say this about X because someone else said: I know this と、他者から得た情報を100%そのまま伝達しているわけではない、つまり構文的に疑問文や命令文などとは共起しないという制約があることを表している。それに対して、-대や-니까の (a) I say this because someone else said this (-대) と I say this because I said this (-니까) は特にこういう制約がないことを表している。

そうだ

- (a) I say this about X because someone else said: I know this
- (b) I don't say: I know this

-대

- (a) I say this because someone else said this
- (b) I don't say: I know this

-니까

- (a) I say this because I said this
- (b) I say: I know this

また「そうだ」と-대の(b)のI don't say: I know thisは、両語がモダリティの「他者はこのように述べているが、真偽のほどは定かではない」という要素を表しているのに対して、-니까の(b) I say: I know thisは、話者本人の伝達表現で伝達内容は話し手にとって確実であることを表している。

紙面の制約上、これ以上述べることは出来ないが、以上の分析からもわかるように、semantic primesを用いて意味を定義するNSM Approachは、一言語内部の類似語の意味だけでなく異言語間の類似語の意味における異同を明確且つ簡潔に表すことが出来るのである。もちろん本稿で提案してきた定義を必要に応じて改訂することは可能であり、今後そのような議論が活発になされ、異言語間の比較意味論研究がより盛んになれば幸いである。

## 【参考文献】

- 안주호(2006) 현대국어 연결어미 '니까'의 문법적 특성과 형성과정 『언어과학 연구』 38 pp.71-91
- 이상복(1981) 「연결어미 '아서', '니까', '느라고', '므로'에 대하여」 『배달말』 5 pp.81-101
- 한길(2004) 『현대우리말의 마침씨끝 연구』 역락
- 青木恵子(1998) 「談話における「って」の機能とその主観化」 『北海道教育大学函館人文学会 人文論究』 65 pp.22-23
- 菊池康人(2000) 「「ようだ」と「らしい」—「そうだ」「だろう」との比較も含めて—」 『国語学』 51-1 46-60
- 許夏玲(1999) 「文末の「って」の意味と談話機能」 『日本語教育』 101 pp.81-90
- 金東郁(1992) 「モダリティという観点から見た「ようだ」と「らしい」の違い」 『日本語と日本文学』 17 pp.21-31
- 国広哲弥・柴田武・長嶋善郎・山田進・浅野百合子(1982) 『ことばの意味<3>—辞書に書いてないこと—』 平凡社選書
- 近藤いね子・高野フミ (2011) 『プログレッシブ和英中辞典』(第四版) 小学館
- 田野村忠温(1991) 「「らしい」と「ようだ」の意味の相違について」 『京都大学言語学研究』 10 pp.62-78
- 寺村秀夫(1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』 くろしお出版
- 中畠孝幸(1992) 「不確かな伝達 —ソウダとラシイ—」 『三重大学日本語学文学』 3 pp.15-24
- 仁田義雄(1991) 『日本語のモダリティと人称』 ひつじ書房
- 仁田義雄・森山卓郎・工藤浩(2000) 『日本語の文法3 モダリティ』 岩波書店
- 野田尚史(1984) 「～にちがいない/～かもしれない/～はずだ」 『日本語学』 3-10 pp.111-119
- 野林靖彦(1999) 「類義のモダリティ形式「ヨウダ」「ラシイ」「ソウダ」」 『国語学』 197 pp.54-68
- 早津恵美子(1988) 「「らしい」と「ようだ」」 『日本語学』 7-4 pp.46-61
- 藤城浩子(1997) 「「判断のモダリティ」についての一考察」 『日本語教育』 92 pp.153-164
- 堀口純子(1995) 「会話における引用の「～ッテ」による終結について」 『日本語教育』 85 pp.12-24
- 三宅知宏(1995) 「ニチガイナイとハズダとダロウ」 『日本語類義表現の文法(上)』 くろしお出版 pp.190-200
- 森田良行(1980) 『基礎日本語2』 角川書店
- Aoki, H.(1986) *Evidentials in Japanese. Evidentiality: the Linguistic Coding of Epistemology*, Norwood, NJ: Ablex Publishing Corporation, pp.223-238
- Asano, Y.(2002) How to be indirect in Japanese: a cultural script approach. *RASK, International Journal of Language and Communication* 17, pp.23-51
- \_\_\_\_\_ (2008) Semantic analysis of tag questions in Japanese: *deshoo* and *janai ka*. *Selected papers from the 2007 Conference of the Australian Linguistic Society*. Melbourne
- Asano-Cavanagh, Y.(2009) A semantic analysis of Japanese epistemic markers: *chigainai* and *hazuda*. *Language Sciences* 31(5), pp.837-852
- \_\_\_\_\_ (2010) Semantic analysis of evidential markers in Japanese: *rashii*, *yooda* and *sooda*. *Functions of Language* 17(2), pp.153-180
- \_\_\_\_\_ (2011) *An analysis of three Japanese tags: ne, yone and daroo*. *Pragmatics and Cognition*, 19(3), pp.448-475
- \_\_\_\_\_ (2014) Japanese interpretation of 'pain' and the use of psychomimes. *International Journal of Language and Culture* 1(2), pp.216-238

- \_\_\_\_\_ (2016) Being 'indecisive' in Japanese: analysis of *kana, darou ka and (n) janai ka*. *Studies in Language* 40(1), pp.63-92
- \_\_\_\_\_ (2017) "Kawaii Discourse" The Semantics of a Japanese Cultural Keyword and its Social Elaboration. *Cultural Keywords in Discourse*. Amsterdam: John Benjamins, pp.213-236
- Farase, G. M.(2016) The cultural semantics of the Japanese emotion terms 'haji' and 'hazukashii'. *New Voices in Japanese Studies* 8, PP.32-54
- Fillmore, C. J.(1968) The case of case. *Universals in Linguistics Theory*. New York: Holt, Rinehart & Winston, pp.1-88
- Goddard, C.(1994) Semantic theory and semantic universals. *Semantic and Lexical Universals: Theory and empirical findings*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins, pp.7-30
- \_\_\_\_\_ (1998) *Semantic Analysis: A Practical Introduction*. Oxford: Oxford University Press
- \_\_\_\_\_ (2005) *The Languages of East and Southeast Asia: An Introduction*. Oxford: Oxford University Press
- \_\_\_\_\_ (Ed.) (2006). *Ethnopragmatics*. Berlin: Mouton de Gruyter
- \_\_\_\_\_ (Ed.) (2008). *Cross-Linguistic Semantics*. Amsterdam: John Benjamins
- \_\_\_\_\_ (2011) *Semantic Analysis: A Practical Introduction [Revised 2nd edition]*. Oxford: Oxford University Press
- \_\_\_\_\_ (2016) Semantic molecules and their role in NSM lexical definitions. *Cahiers de lexicologie* 109: 13-34
- Goddard, C. & Wierzbicka A.(2002) *Meaning and Universal Grammar: Theory and Empirical Findings. Two volumes*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins
- \_\_\_\_\_ (2014) *Words and Meanings: Lexical Semantics across Domains, Languages and Cultures*. Oxford: Oxford University Press
- Hasada, R.(1997) Conditionals and counterfactuals in Japanese. *Language Sciences* 19(3), pp.277-288
- \_\_\_\_\_ (2001) Meanings of Japanese sound-symbolic emotion words. *Emotions in Crosslinguistic Perspective*. Berlin: Mouton de Gruyter, pp.221-258
- \_\_\_\_\_ (2002) 'Body part' terms and emotion in Japanese. *Pragmatics and Cognition* 10(1), pp.107-128
- \_\_\_\_\_ (2006) Cultural scripts: Glimpses into the Japanese emotion world. *Ethnopragmatics*. Berlin: Mouton de Gruyter, pp.171-198
- \_\_\_\_\_ (2008) Two virtuous emotions in Japanese: *nasake/joo* and *jih*. *Cross-Linguistic Linguistics*. Amsterdam: John Benjamins, pp.331-347
- Jackendoff, R.(1983) *Semantics and Cognition*. Cambridge, Mass: MIT Press
- \_\_\_\_\_ (1990) *Semantic Structures*. Cambridge, Mass: MIT Press
- Katz, J. F. & Fodor, J. A.(1963) Structure of a sematic theory. *Language* 39, pp.170-210
- Kim, Hyunsu.(2015) Self-voice '-nikka' in the Korean language. *Journal of Pragmatics* 88, pp.73-87
- Kim, Kyu-Hyun and Kyung-Hee Suh.(1994) The discourse connective 'nikka' in Korean conversation. In Noriko Akatsuka (ed.) *Japanese/Korean Linguistics* 4, pp.113-129
- Lakoff, G.(1970) *Irregularity in Syntax*. New York: Holt, Rinehart & Winston
- MaCawley, J. D.(1968) The role of semantics in a grammar. *Universals in Linguistics Theory*. New York: Holt, Rinehard & Winston, pp.124-169
- Onish, M.(1997) The grammar of mental predicates in Japanese. *Language Sciences* 19(3), pp.219-233

- Otomo, A. & Torii, A.(2005) An NSM approach to the meaning of tear and its Japanese equivalents. *Selected papers from the Annual Conference of the Australian Linguistic Society*, Melbourne
- Peeters, B.(Ed.)(2006). *Semantic Primes and Universal Grammar: Empirical evidence from the Romance languages*. Amsterdam: John Benjamins
- Perlmutter, D., M. (Ed.),(1983) *Studies in Relational Grammar 1*. Chicago: University of Chicago Press
- Perlmutter, D., M. & Rosen, C. (Eds.),(1984) *Studies in Relational Grammar 2* Chicago: University of Chicago Press
- Postal, P. M. & Joseph, B. D. (Eds.),(1990) *Studies in Relational Grammar 3*. Chicago: University of Chicago Press
- Wierzbicka, A.(1996) *Semantics: primes and universals*. Oxford: Oxford University Press
- \_\_\_\_\_ (2006) *English: Meaning and Culture*. New York: Oxford University Press
- Yoon, K. J.(2003) The proposed universal semantic prime THIS in Natural Semantic Metalanguage Theory: Is there an exponent in Korean? *Journal of Korean Linguistics* 16, pp.353-373
- \_\_\_\_\_ (2004) Not just words: Korean social models and the use of honorifics. *Intercultural Pragmatics* 1(2), pp.189-210
- \_\_\_\_\_ (2006) *Constructing a Korean Natural Semantic Metalanguage*. Seoul: Hankook Publishing Co.
- \_\_\_\_\_ (2007) Korean ethnopsychology reflected in the concept of ceng 'affection': semantic and cultural interpretation. *Discourse and Cognition* 14(3), pp.81-103
- \_\_\_\_\_ (2008) The Natural Semantic Metalanguage in Korean. *Cross-Linguistic Semantics*. Amsterdam: John Benjamins,pp.121-162
- \_\_\_\_\_ (2011) Understanding cultural values to improve cross-cultural communication: an ethnopragmatic perspective to Korean child rearing practices. *The Journal of Studies in Language* 26, pp.879-899

### 【引用資料】

- KBS2 (2009) 『꽃보다 남자』
- SBS (2013) 『수상한 가정부』
- KBS2 (2010) 『공부의 신』
- TBSテレビ (2005a) 『ドラゴン桜』
- TBSテレビ (2005b) 『花より男子』
- 遠藤周作 (1993) 『深い河』 講談社
- 山田詠美 (1989) 『放課後のキーノート』 新潮文庫
- 吉本ばなな (1988) 『キッチン』 福武書店
- Backus, M. (1993) *Kitchen*. London: faber and faber
- Gessel, V. C. (1994). *Deep River*. Tokyo: Charles E. Tuttle Company
- Johnson, S. L. (1992) *After School Keynotes*. Tokyo: Kodansha International.

## 〈요지〉

## NSM Approach에 의한 유의어의 의미분석

- 한일양언어의 전달표현을 중심으로 -

이 연구는 일본어의 전달표현 そうだ, らしい, って와 한국어의 전달표현 '-대'와 '-니까'를 Natural Semantic Metalanguage (NSM)의 관점에서 분석하는데 목적이 있다. そうだ, らしい, って는 비슷한 상황에서 사용되어, 흔히 같은 영어표현 'he/she says' 혹은 'I heard'로 번역이 되기도 한다. 이들 전달표현은 보통 유의어로 취급되어지나 항상 상호교환되는 것은 아니며, 이들 사이에는 사전적 혹은 전통적인 의미분석 방법으로 명확히 하기 힘든 근본적인 차이가 존재하는 것이다. NSM은 Anna Wierzbicka와 동료학자들에 의해 제창되고 발전되어온 이론으로(대표적인 연구서: Goddard 1994, 1998, 2008, 2016; Goddard & Wierzbicka 2002, 2014; Peeters 2006), NSM에 의한 분석은, 본 연구를 통해 보여지듯이, 선행연구에 비교해 이들 유의어간의 유사점과 차이점을 보다 간략하고 명확히 기술한다는 의의가 있다.

본 연구는 또한 한국어의 '-대'와 '-니까'를 NSM의 관점에서 분석하고 일본어의 전달표현들과 비교한다. NSM은 준보편적인(near-universal) 특성을 갖는 semantic primes을 사용하여 의미를 정의하는데, 본 연구는 이들 전달표현의 분석을 통하여, semantic primes에 의한 의미의 정의는 해당 표현의 의미를 기술함에 있어서 그 가능성이 뛰어날 뿐 아니라, 다른 언어간의 의미의 대조분석에도 효과적이라는 점이 보여질 것이다.

논문분야: 의미론

키워드: NSM, 메타랭귀지, 의미론, 유의어, 전달표현

■ 유코 아사노-카바나(裕子 カヴァナ浅野)

カーティン大学 教授、意味論

Y.Asano@curtin.edu.au

■ 이덕영(李德泳)

オーストラリア国立大学 教授、日本語学

Duck.Lee@anu.edu.au

- 投稿日 : 2017년 9월 25일
- 審査開始 : 2017년 10월 22일
- 審査完了 : 2017년 11월 27일
- 掲載確定 : 2017년 11월 24일